



事業報告書

平成16年4月1日 ~ 平成17年3月31日

第33期

モスから
株主の皆さまへ

株式会社 モスフードサービス

株式会社モスフードサービス第33期事業年度の終了にあたり、
株主の皆さまにご挨拶申し上げます。



ファストカジュアル業態への
積極的な転換を図り、
笑顔とおいしさをご提供する
モスを更に進化させます。

代表取締役社長 CEO 兼 COO

関谷 正

Question

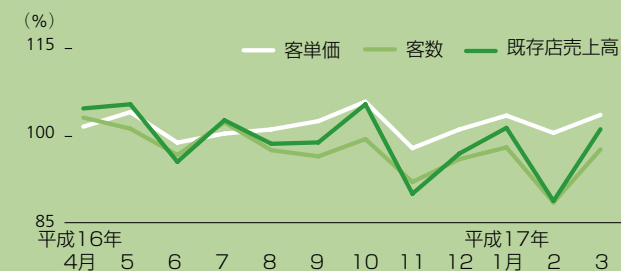
当期の業績についてお聞かせください

当期における外食産業をとりまく環境は、消費の低迷や競争の激化に加えて、猛暑、台風、長雨といった天候要因に地震なども重なり、厳しい状況が続きました。平成16年（1月から12月まで）は業界全体の既存店売上高が前年に比べ2.8%減少（社団法人日本フードサービス協会まとめ）するなど、回復基調にはあるものの、引き続き前年割れの状況です。こうした中、モスはファストカジュアル業態（呼称：緑モス）への進化を中心に、ブランド価値の向上に努めてまいりました。この結果、モスバーガーチェーンの全店売上高は前年同期比98.7%、既存店売上高は同98.9%となり、当期の単体での売上高は55,636百万円（同0.6%減）、営業利益2,490百万円（同14.3%増）、経常利益2,944百万円（同17.7%増）となりました。また、減損会計を早期適用したことにより、本社ビルなど合計で11,220百万円の減損損失を特別損失に計上したため、当期純損失は7,446百万円（前期当期純利益は1,011百万円）となっております。期末配当金につきましては、株主の皆さまへの積極的な利益還元の基本方針に基づき、当初の予定通り12円とし、前期より2円の増配となる年間配当金1株当たり24円とさせていただきます。

Question

新・中期経営計画策定の背景について
お教えてください

平成17年4月25日付けの「日経MJ」に掲載された「ブランド・ジャパン2005」（約2万4千人の消費者向けアンケート調査）においてモスは、外食部門で第1位の評価をいただきました。ファストカジュアル業態への進化が、この高い評価に結びついているものと自負しております。しかし、消費環境の変化はめまぐるしく、生活者の食に関するニーズは「安心・安全・健康」を超えて、食事のあり方や暮らしそのものについての提案を求めるまでに広がっています。こうした多岐に渡るご要望にお応えしていくため、モスはファストカジュアル業態への進化をより強力に推進していくことを大きな柱とする新・中期経営計画「V.I.P.21」を、平成17年4月にスタートさせました。具体的には、トータルサティスファクション、ブランド価値の更なる向上、CSR経営の3つを指針に掲げております。主な戦略には、「赤モス」（従来のモスバーガー店舗）の「緑モス」への業態進化を中心に、関連事業の黒字化と第2、第3の事業の柱の確立、地域に密着した店舗運営と意思決定の迅速化を図るために直営店を管轄する直営販社の設立、海外における新市場の開拓などを盛り込んでおります。





Question

CSR（企業の社会的責任）への取り組みは
いかがでしょうか？

平成16年12月18日から20日にかけて、モスバーガー屋島西町店（香川県高松市）において「ノロウイルス」を原因とする食中毒事故を、創業以来はじめて発生させてしまい、多くの皆さまにご迷惑をおかけいたしました。改めて、ここに深くお詫び申し上げます。モスは、「食を通じて人を幸せにすること」という企業目標のもと「おいしさ」「安心」「安全」「健康」という考えを経営の中心に据えておりましたにもかかわらず、このような事故を発生させてしまったことを厳粛に受け止め、今回、食材に起因するものではありませんでしたが、全社をあげて衛生管理の重要性および危機管理の大切さを再確認いたしました。平成17年3月の組織変更においては、店舗の営業指導員を大幅に増員して、全店舗に対する衛生教育・指導を徹底しております。「人間貢献・社会貢献」を経営理念に掲げ、食にたずさわる企業として、食本来の役割と企業の社会的責任に対して、お客さまの信頼をより一層強固なものにしていくため、常に細心の注意と関心を払い、今後、更なる努力を重ねてまいります。具体的には、子供たちにこれからの食生活のあり方や、食材に対する関心を高めていただくために「モスバーガー食育推進委員会」を発足させ、独自に作成した食育プログラムに基づく体験入店などの活動を積極的に行っておりま

サビリティシステムの実験を開始し、食材へのこだわりを更に進めていくほか、環境への継続した取り組みや地域に密着した個店単位での地域貢献活動も更に強化していきます。

Question

今期の施策と展望をお聞かせください

当期は、ファストカジュアル業態への進化の1年目として事業を展開してまいりました。おかげさまで、平成17年3月末には「緑モス」の店舗数が計画以上の354店舗となっております。平成17年度も350店舗の業態進化を計画し、スピードを緩めることなく進めてまいります。このファストカジュアル業態への進化において、これまでの商品（ソフト）価値向上に加えて、店舗（ハード）及び接客サービス（ヒューマン）での基本価値を大きく向上させてまいります。また、この「緑モス」を象徴するフラッグシップショップとして、平成17年4月22日、東京都国立市に世界的に有名な絵本作家のディック・ブルーナ氏のイラストレーションを採用した「モスバーガー国立店」をオープンいたしました。同店は、緑化看板など環境への配慮やバリアフリーへの対応を施し、「やさしさとあたたかさ」に満ちあふれたモスが目指す「緑モス」を具現化した店舗です。こうした次世代型「緑モス」の実験も積極的に行っておりま

平成17年6月
代表取締役社長CEO兼COO 櫻田 厚

Value Innovation Plan 21

[V.I.P.21 始動!]

企業価値の更なる向上を目指した新3カ年計画

当社は、平成17年4月より新・中期経営計画（平成20年3月までの3カ年計画）「V.I.P.21」をスタートさせました。21世紀における新たな飛躍を目指して、グループ各社が一丸となって果敢に変革に挑戦し、企業価値の更なる向上に邁進していきます。



《 指 針 》

トータルサティスファクション

株主さまをはじめ、お客さまや地域社会などモスを支えてくださっているすべての方々と、共に喜びをわかちあえるトータルサティスファクションを目指します。

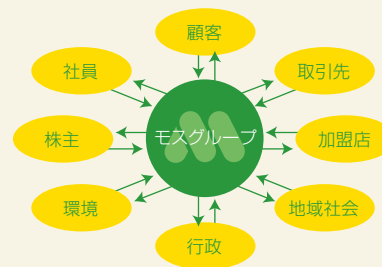
ブランド価値の更なる向上

モスバーガー事業をファストカジュアル業態（呼称：緑モス）へ進化させるなど、一層の成長と発展を期してブランド価値を高め、企業価値の更なる向上を図ります。

CSR 経営

人間貢献（お客さまの幸せづくりに奉仕する）と社会貢献（地域社会の幸せづくりに奉仕する）を経営理念とし、さらに「食を通じて人を幸せにすること」を企業目標として、モスはCSR経営を実践いたします。

モスに関わる人たちすべてに…



※「V.I.P.21」における目標指標は、連結における経営計画です。



笑顔、あふれる。

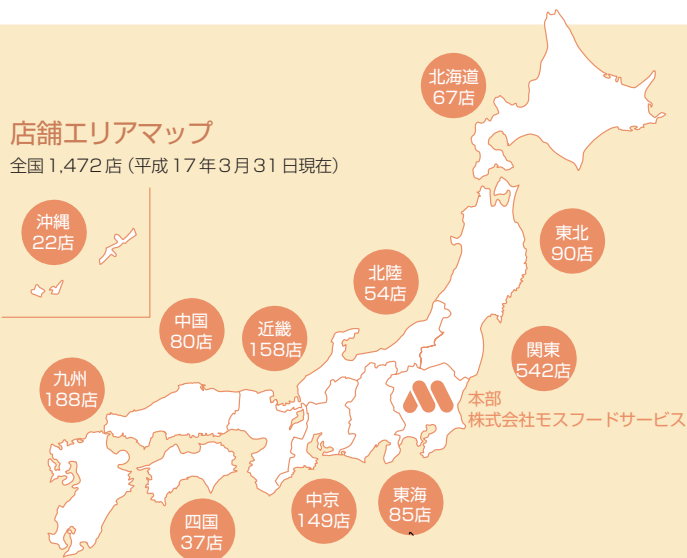
新店情報

当期に **75** 店舗がオープンいたしました。
(モスバーガー69店舗、ほか6店舗)

当期は、ファストカジュアル業態の「緑モス」を中心に75店舗をオープンいたしました。高品質な商品を、落ち着いた空間でゆったりと味わっていただけるファストカジュアル業態の店舗を今後積極的に出店し、更にこれに続く第二、第三の事業の柱を確立していきます。平成17年4月には、「マザーリーフ」のセミセルフ・スタイル店舗「caffè leggero (カフェ・レジェロ)」を札幌に、食材にこだわった「AEN」のビュッフェ・スタイル店舗「AEN TABLE」を大阪に出店いたしました。「おいしくて、安全で、健康によい商品」を「笑顔と真心のサービス」で——これがモスバーガーグループのお店です。

店舗エリアマップ

全国1,472店(平成17年3月31日現在)



平成17年
4/22
Open

「モスバーガー国立店」(東京都国立市)が「ディック・ブルーナモデル店舗」としてオープンしました。



ディック・ブルーナモデル店舗はディック・ブルーナ氏のイラストレーションを採用したお店で、緑化看板には環境にやさしい新素材を使うなど、地球温暖化にも配慮しています。

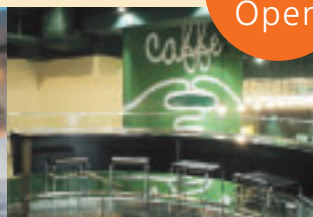


平成17年
4/20
Open



AEN TABLE
ユニバーサル・シティウォーク大阪™店

平成17年
4/27
Open



caffè leggero 札幌ビヴォ店

モスバーガーチェーン全店売上高の5年間の推移

	第29期	第30期	第31期	第32期	第33期
全店売上高	118,571	110,027	107,243	107,418	105,985
増減率	△6.5%	△7.2%	△2.5%	0.2%	△1.3%

店舗情報

単位：百万円

モスフードサービスの店舗数・出店数

	第29期	第30期	第31期	第32期	第33期
店舗数					
フランチャイズ	1,458	1,390	1,342	1,303	1,327
直営店	108	150	167	173	145
計	1,566	1,540	1,509	1,476	1,472
出店数					
フランチャイズ	47	34	29	44	64
直営店	12	22	25	20	11
計	59	56	54	64	75

単位：店

モスバーガーグループの店舗数

単位：店

	第33期
モスバーガー	1,442
MOS's-C	2
80℃	8
マザーリーフ	17
まめどり	1
ステファングリル	2
ちりめん亭	105
AEN	5
ハワイモスバーガー	1
台湾モスバーガー	105
シンガポールモスバーガー	17
合計	1,705

モスフードサービスの売上構造

モスフードサービスの売上高

55,636 百万円

フランチャイジー 41,263 百万円

直営店 12,224 百万円

その他の営業収入 2,149 百万円

直営店
22.0%

その他の
営業収入部門
3.8%

フランチャイジー
74.2%

チェーン全店の売上高

105,985 百万円

直営店
145 店

加盟店
1,327 店

モスの
おいしさ

おいしさ、伝える。

商品情報

新商品のご紹介

平成 17 年 3 月 16 日より「ニッポンのバーガー 匠味十段（たくみじゅうだん）」を、「緑モス」専用商品として発売開始しました。パンズ、パティ、野菜、卵、ベーコン、ソース等、こだわりの 10 種類の具材を組み合わせた食事性の高い商品です。一般的にはベーコンエッグバーガーとして親しまれている定番のハンバーガーですが、素材・味のみならず、生産履歴がはっきりした指定農場の卵を使用するなど、多くのお客さまにご満足いただける高品質バーガーに仕上げました。これからも、モスならではの安心で健康によい「おいしさ」に更に磨きをかけていきます。

モスの卵

おいしさと安全にこだわった食材



「ニッポンのバーガー 匠味十段」の目玉として特に力を入れたのが卵でした。村山手づくり卵農場（山形県村山市）の紅輝卵（こうきらん）は、卵特有の臭みがなく生で食べるとコクがあり、加熱するとふんわりとしたおいしさが特徴です。

詳しい情報は、HP の MORE のモスの野菜「産地だより」をご覧ください。



クセになる刺激的な辛さ「ハバネロフォカッチャ」新登場！ 期間限定

（平成 16 年 12 月～平成 17 年 2 月）



ハバネロフォカッチャ
380 円



バーベキューフォカッチャ
380 円



北のコロッケフォカッチャ
290 円

モスバーガー初!! パオを使用した中華風バーガー 期間限定

（平成 17 年 4 月～6 月）



パオチキン
北京ダックソース仕立て
380 円



パオスチキ
黒旨酢（くろうます）仕立て
380 円

モスの野菜をボリュームたっぷりに盛り付け

緑モス
専用



モス畑のサラダ
トマトとレタスのサラダ
350 円



モス畑のサラダ
シーザーサラダ
500 円



モス畑のサラダ
アボカドとパインのサラダ
600 円

十段に重ねたひとつひとつの高品質素材と味覚

数量限定 緑モス専用 ニッポンのバーガー 匠味 十段 1,000 円



※商品の価格はすべて税込



モスの
ハート

信頼を、築く。

CSR 情報

CSR 活動

食の安全性への取り組みがますます重要となり、より一層の品質管理が求められています。また、環境についてもこれまで以上の積極的な取り組みが必要となってきています。モスでは、平成 16 年 3 月に CSR 推進本部を設置し、その活動の基本方針となる「モスバーガーチェーン倫理憲章」を制定しました。憲章の中に実現すべき項目として「法令遵守」、「社会との対話」、「環境保全活動への取り組み」等を挙げ、これまで課題に対するさまざまな活動を真摯に行ってきました。これからも、本部や子会社のみならず、チェーン全店のスタッフが「食」にたずさわる一員としての自覚を持ち、お客さま（社会）に対して常にその責任を果たし、継続的に信頼を築いていくことをお約束します。



環境

「社会・環境報告書 2005」を発行

環境活動に加えて、コーポレート・ガバナンスやコンプライアンス体制、衛生管理強化といった企業の社会的責任への取り組みをご紹介します「社会・環境報告書 2005」を発行しました。また、モスフード・シンガポール社でも平成 17 年 3 月、シンガポールの外食産業では初めてとなる ISO 14001 の認証を取得しました。



安全

IC タグを使用した食品トレーサビリティシステムの実験開始

平成 16 年 12 月より、IC タグを使用した外国産牛肉（ハンバーガーパティで使用）のトレーサビリティシステムの実験を開始しました。今後、すべての食材での IC タグ活用を視野に入れ、安心・安全な食材へのこだわりを更に進めていくため、実験を継続していきます。



地域社会

お客さまや本社近隣の小学校に「ミニひまわり栽培セット」を贈りました。

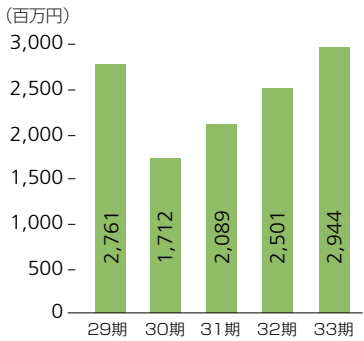
毎年 3 月 12 日の「モスの日」には、お客さまに感謝の気持ちを込めて「お花の栽培セット」をプレゼントしています。平成 17 年には地域の方々に感謝するという趣旨のもと、本社近隣の小学校にも贈りました。



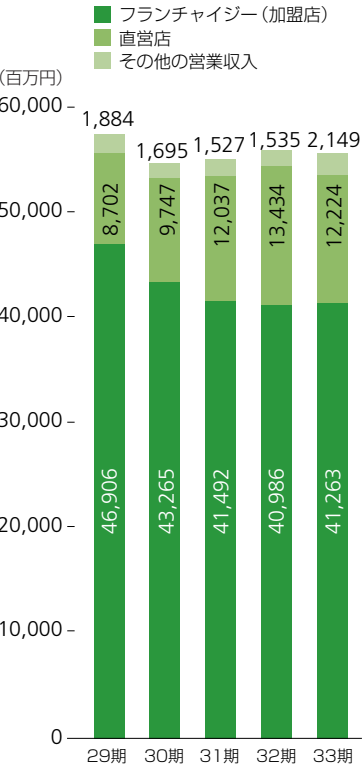


単体主要経営指標

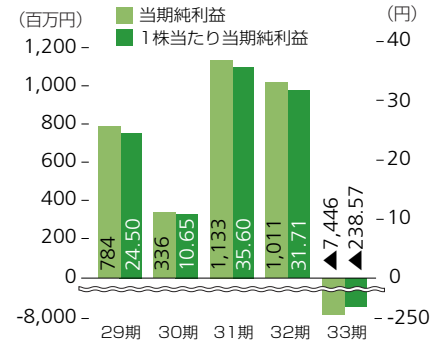
経常利益



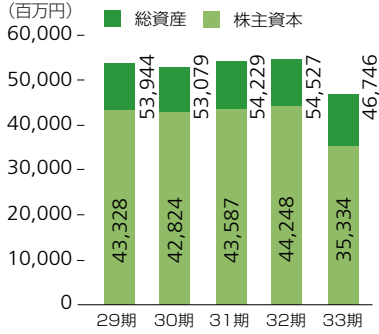
売上高 (セグメント別)



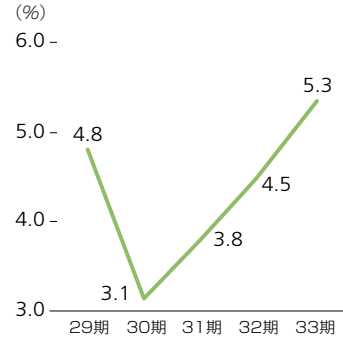
当期純利益・1株当たり当期純利益



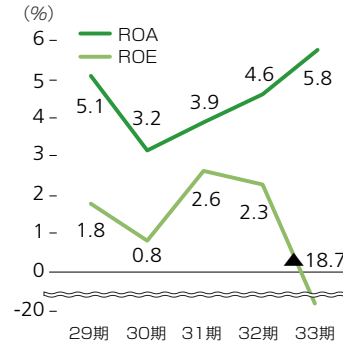
総資産・株主資本



売上高経常利益率



ROA・ROE



単体主要経営指標・連結財務ハイライト

連結財務ハイライト

業績と財務状況の5年間の推移

単位：千円

	第29期	第30期	第31期	第32期	第33期
売上高	70,819,787	72,122,436	65,668,290	58,675,779	59,345,939
営業利益	2,527,043	1,461,303	2,328,852	2,114,967	2,046,123
経常利益	2,973,154	2,050,318	2,604,808	2,521,773	2,615,928
当期純利益又は当期純損失 (△)	1,017,821	694,216	1,058,733	1,087,365	△ 7,348,474
総資産	64,847,686	65,289,634	57,523,715	56,776,018	48,336,544
株主資本	43,515,272	43,959,561	44,549,234	44,819,287	35,538,357

事業の種類別セグメント情報

単位：千円

	モスバーガー 関連事業	その他 飲食事業	その他の 事業	計	消去又は 全社	連結
自平成16年4月1日 至平成17年3月31日						
売上高及び営業損益						
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	56,717,383	2,152,595	475,960	59,345,939	—	59,345,939
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	2,922	3,555	747,802	754,280	△ 754,280	—
計	56,720,306	2,156,150	1,223,763	60,100,220	△ 754,280	59,345,939
営業費用	54,442,676	2,488,372	1,164,079	58,095,128	△ 795,312	57,299,816
営業利益	2,277,629	△ 332,221	59,683	2,005,091	41,031	2,046,123
資産、減価償却費及び資本的支出						
資産	44,324,886	837,349	3,824,951	48,987,187	△ 650,643	48,336,544
減価償却費	1,597,234	66,861	45,516	1,709,612	60	1,709,672
資本的支出	3,290,140	106,285	269,928	3,666,354	540	3,666,894

連結子会社の概要

	資本金 (千円)	議決権比率 (%)	主要な事業内容
1. 株式会社エム・エイチ・エス	10,000	100.0	食品衛生検査業務
2. 株式会社モスクレジット	300,000	100.0	金銭貸付業務
3. 株式会社トモス	200,000	98.6	中華そばの「ちりめん亭」の経営
4. 株式会社四季菜	350,000	100.0	四季の旬菜料理 (和食レストラン)「AEN (あえん)」の経営
5. 株式会社パートナーズフォー ^{※1}	227,100	99.1	北海道地区における「モスバーガー」の経営
6. 株式会社モスフードサービス九州 ^{※2}	250,000	100.0	九州地区における「モスバーガー」の経営
7. 株式会社モスフードサービス東北 ^{※3}	240,000	100.0	北海道・東北地区における「モスバーガー」の経営
8. 株式会社モスフードサービス関西 ^{※4}	350,000	100.0	関西地区における「モスバーガー」の経営

(注) ※1 株式会社パートナーズフォーにつきましては非連結子会社でありましたが、重要性が増したため、当連結会計年度から連結子会社へ変更することといたしました。
※2 株式会社モスフードサービス九州を平成16年4月15日に設立し、連結子会社といたしました。
※3 株式会社モスフードサービス東北を平成16年7月23日に設立し、連結子会社といたしました。
※4 株式会社モスフードサービス関西を平成16年12月16日に設立し、連結子会社といたしました。



単体財務諸表

単体貸借対照表（要旨） 単位：千円

	第33期 (平成17年3月31日現在)	第32期 (平成16年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	17,872,229	17,056,247
固定資産	28,874,420	37,470,839
有形固定資産	9,719,283	20,923,049
無形固定資産	1,595,632	942,574
投資その他の資産	17,559,505	15,605,214
投資有価証券	3,034,810	6,401,901
繰延税金資産	3,608,663	907,637
その他	10,916,032	8,295,676
資産合計	46,746,650	54,527,086
負債の部		
流動負債	9,773,731	8,839,399
固定負債	1,638,206	1,439,144
負債合計	11,411,937	10,278,544
資本の部		
資本金	11,412,845	11,412,845
資本剰余金	11,100,524	11,100,524
利益剰余金	13,839,124	22,052,194
利益準備金	798,649	798,649
任意積立金	17,000,000	17,000,000
当期末処分利益又は当期末処理損失（△）	△3,959,524	4,253,545
その他有価証券評価差額金	310,655	260,523
自己株式	△1,328,436	△577,544
資本合計	35,334,712	44,248,542
負債、資本合計	46,746,650	54,527,086

有形固定資産
有形固定資産の大幅な減少は、減損会計を早期適用し、減損損失を11,220百万円計上したことによるものです。

投資有価証券
投資有価証券の減少は、固定資産の取得及び運用施策の変更によるものです。

繰延税金資産
繰延税金資産の増加は、減損損失の計上によるものです。

貸借対照表構成比		
科目	33期	32期
流動資産	38.2% ◀	31.3%
固定資産	61.8% ◀	68.7%
流動負債	20.9% ◀	16.2%
固定負債	3.5% ◀	2.7%
資本合計	75.6% ◀	81.1%

単体財務諸表

単体損益計算書（要旨） 単位：千円

	第33期 (平成16年4月1日～ 平成17年3月31日)	第32期 (平成15年4月1日～ 平成16年3月31日)
売上高	55,636,685	55,957,361
売上原価	32,491,718	32,824,800
売上総利益	23,144,967	23,132,561
販売費及び一般管理費	20,654,506	20,954,069
営業利益	2,490,460	2,178,491
営業外収益	2,696,147	2,232,038
営業外費用	2,242,356	1,909,386
経常利益	2,944,252	2,501,143
特別利益	470,994	313,618
特別損失	12,422,269	840,063
税引前当期純利益又は税引前当期純損失（△）	△9,007,022	1,974,699
法人税、住民税及び事業税	1,077,000	729,000
法人税等調整額	△2,637,626	234,501
当期純利益又は当期純損失（△）	△7,446,395	1,011,198

売上高
売上高は320百万円の減収となりました。主な要因は、直営店の販売子会社化による直営店売上の減少です。

売上原価
売上原価は333百万円の減少となりました。これは仕入コストの削減のほか、売上高の減少によるものです。

販売費及び一般管理費
TVCM等による販売促進費が増加いたしましたが、直営店の減少により人件費や家賃地代・水道光熱費が減少したため、販売費及び一般管理費は299百万円減少しました。

営業利益・経常利益
営業利益は、売上高の減少を上回るコスト削減により、売上原価並びに販売費及び一般管理費が減少したため311百万円の増益となりました。また経常利益は、キャンペーン協賛金の増加等により443百万円の増益となりました。

当期純利益又は当期純損失（△）
減損会計早期適用による減損損失11,220百万円の計上及び法人税等調整額を2,637百万円計上したため8,457百万円の減益となりました。

利益処分（要旨） 単位：千円

	第33期	第32期
当期末処分利益又は当期末処理損失（△）	△3,959,524	4,253,545
任意積立金取崩額	5,000,000	—
利益処分額	383,529	389,943
利益配当金	371,529	377,943
役員賞与金	12,000	12,000
次期繰越利益	656,945	3,863,601

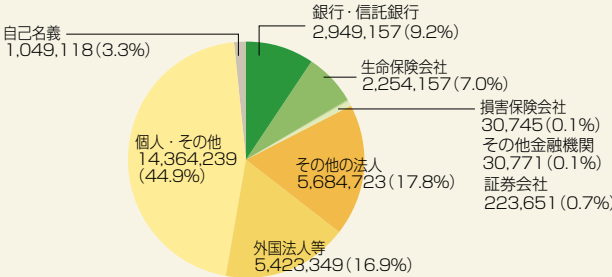


株式の情報（平成17年3月31日現在）

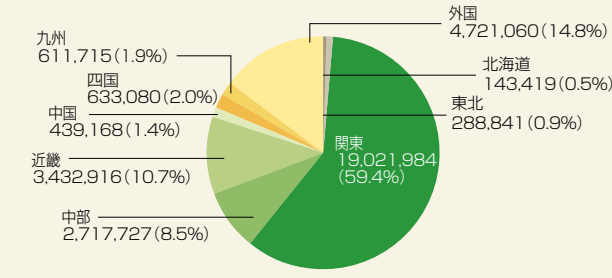
株式の状況

会社が発行する株式の総数 101,610,000 株
発行済株式の総数 32,009,910 株
株主数 11,543 名
(うち単元株主数 10,932 名)

所有者別株式分布



地域別株式分布



大株主（上位10名）

株主名	持株数(千株)	議決権比率(%)
エムエルアイイーエフジーノントリーティ カストディーアアカウント	2,194	7.2
株式会社ニッター	1,414	4.7
紅梅食品工業株式会社	1,400	4.6
ノーザントラストカンパニーエイブイエフシー サブアカウントアメリカンクライアント	1,325	4.4
日本生命保険相互会社	1,243	4.1
大同生命保険株式会社	790	2.6
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	604	2.0
株式会社東京三菱銀行	595	2.0
エイアイユーインシュアランス カンパニーオールディー4プロド	590	1.9
ノーザントラストカンパニー エイブイエフシーリュエースタックス エグゼンプテドペンションファンズ	527	1.7

(注) 1. エムエルアイイーエフジーノントリーティカストディーアアカウントは、カストディアンバンクであり、株式の管理・保護(カストディアン)を行うために、株式名義人となっております。
2. ノーザントラストカンパニーエイブイエフシーサブアカウントアメリカンクライアントは、カストディアンバンクであり、株式の管理・保護(カストディアン)を行うために、株式名義人となっております。
3. ノーザントラストカンパニーエイブイエフシーリュエースタックスエグゼンプテドペンションファンズは、カストディアンバンクであり、株式の管理・保護(カストディアン)を行うために、株式名義人となっております。
4. 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社の持株数は全て証券投資信託等に係るものであります。
5. 当社は自己株式を1,049千株保有しておりますが、議決権がないため上記の大株主より除外しております。
6. シルチェスター インターナショナル インベスターズ リミテッドから、大量保有報告書(平成12年5月22日付)および下記内容の変更報告書(平成17年3月9日付)が提出されておりますが、当社として当営業年度末時点における同社名義で所有する株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には記載しておりません。なお、同社からは、保有している株式の名義は、株式の管理・保護を行うカストディアンバンクであるノーザントラストカンパニーエイブイエフシーサブアカウントアメリカンクライアント等である旨の報告を別途受けております。
大量保有者 シルチェスター インターナショナル インベスターズ リミテッド
住 所 ヒースコートハウス、20 サビルロウ、ロンドン、W1S 3PR 英国
所有株式数 2,187,100株
発行済株式総数(平成16年3月31日現在) 32,009,910株
発行済株式総数に対する所有株式割合 6.83%
7. スティール・パートナーズ・ジャパン株式会社から、大量保有報告書(平成16年10月25日付)および下記内容の変更報告書(平成16年11月19日付)が提出されておりますが、当社として当営業年度末時点における同社名義で所有する株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には記載しておりません。なお、同社からは、保有している株式の名義はエムエルアイイーエフジーノントリーティカストディーアアカウントである旨の報告を別途受けております。
大量保有者 スティール パートナーズ ジャパン ストラテジック ファンド オフショア、エル・ビー
住 所 Hemisphere Fund Managers Limited、P.O.Box30362 SMB,3rdFloor,Harbour
Centre, North Church Street,George Town,Grand Cayman,Cayman
Islands,B.W.I.
所有株式数 1,958,000株
発行済株式総数(平成16年11月12日現在) 32,009,910株
発行済株式総数に対する所有株式割合 6.12%

会社概要

商 号 株式会社 モスフードサービス
MOS FOOD SERVICES, INC.
本 社 〒162-8501 東京都新宿区単筒町22番地
03-3266-8728 (IR推進室)
http://www.mos.co.jp/
設立年月日 昭和47年(1972年)7月21日
資 本 金 114億1,284万円(平成17年3月31日現在)

役 員 (平成17年6月28日現在)

代表取締役社長 CEO 兼 COO	櫻 田 厚	執行役員	中村 栄輔
取締役上級執行役員 CMO	多 田 和 彦	執行役員	今 田 一 彦
取締役上級執行役員 CCO	田 村 茂	執行役員	渡 邊 次 郎
取締役上級執行役員 CFO	石 川 芳 治	執行役員	原 口 恒 臣
取締役上席執行役員	齋 藤 眞 澄	執行役員	篠 原 光 弘
取締役上席執行役員	吉 野 登	執行役員	福 島 竜 平
上席執行役員	堀 田 富 雄	常勤監査役	松 村 克 一
執行役員	斉 藤 紀 行	監査役	渡 部 恭 三
執行役員	中 井 順	監査役	功 刀 靖 介
執行役員	栗 生 東 亞	監査役	久 留 島 隆
執行役員	増 倉 章	監査役	羽 根 川 敏 文

単元株式数および株主優待制度の変更のお知らせ

当社では、株式の流動性向上を図るため、平成17年9月1日より単元株式数の変更(1,000株→100株)を行います。また、それに伴い、株主優待制度も次の通り変更いたします。

株主優待対象基準と優待内容

平成17年9月末日の株主名簿に登録されている単元株主様から変更の対象となります。

- 100株以上 500株未満 …………… 年間 1,000円分(500円× 1枚×2回)
- 500株以上 1,000株未満 …………… 年間 6,000円分(500円× 6枚×2回)
- 1,000株以上 …………… 年間 20,000円分(500円× 20枚×2回)

有効期限: 6月発行分 翌年3月末日まで、11月発行分 翌年9月末日まで

株式の情報・会社概要

株主メモ

決 算 期	3月31日
基 準 日	(1) 定時株主総会、利益配当金 … 3月31日 (2) 中間配当金 … 9月30日 (3) その他必要のあるとき … あらかじめ公告して定めた日
公 告 方 法	日本経済新聞に掲載します。
株式名義書換等の取扱い	名義書換代理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番3号 UFJ信託銀行株式会社 同 事務取扱所 東京都江東区東砂七丁目10番11号 (〒137-8081) 郵便物送付先 UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話照会先 電話0120-232-711 同 取次所 UFJ信託銀行株式会社 全国各支店、野村證券株式会社 本店及び全国各支店
貸借対照表及び損益計算書掲載のホームページアドレス	http://www.mos.co.jp/company/kessanjouhou/index.html
1 単 元 の 株 式 数	1,000株

(お知らせ)

- 株式に関するお問い合わせは、名義書換代理人の電話照会先にて受け付けております(土日祝祭日を除く9:00から17:00)。
電話照会先0120-232-711
- 株式に関するお手続き用紙のご請求について
株式に関するお手続き用紙(届出住所・印鑑・姓名等の変更届、配当金振込指定書、単元未満株式買取請求書、名義書換請求書等)のご請求につきましては、名義書換代理人にてフリーダイヤルおよび

インターネットにより24時間受け付けておりますので、ご利用ください。

0120-244-479 (UFJ信託銀行本店証券代行部)

0120-684-479 (UFJ信託銀行大阪支店証券代行部)

インターネットアドレス <http://www.ufjtrustbank.co.jp/>
なお、株券保管振替制度をご利用の株主様は、お取引口座のある証券会社にご照会ください。

株主優待

年間20,000円相当の株主優待券をご提供しています。
発行日 6月、11月頃(予定)

優待対象基準

単元株(1,000株)以上の株式を所有している方が対象となります。6月発行分は、3月末日現在に株主名簿に登録されている方が対象です。11月発行分は、9月末日現在に登録されている方が対象です。なお、平成17年9月より単元株式数および株主優待制度を変更いたします。詳細は本紙中面14ページをご覧ください。

優待内容

一律10,000円相当の株主優待券(500円×20枚)を年2回発行。全国のカバーグループの各店舗でご利用できます。【モスバーガーグループの店舗:モスバーガー、マザーリーフ、80℃、ステファングリル、MOS's-C、まめどり、ちりめん亭、AENなど。一部店舗を除く】

有効期限

6月発行分 翌年3月末日まで、11月発行分 翌年9月末日まで

<http://www.mos.co.jp/>

最新の商品・店舗情報や投資家向け情報および企業情報などを紹介しています。モスバーガーにご関心をお寄せいただいている株主・投資家の皆さま向けには、無料のIRメールニュースも配信しています。どうぞ、ご活用ください。



〒162-8501 東京都新宿区笹岡町22番地

R100 PRINTED WITH SOY INK
この印刷物は自然環境保護のために古紙配合率100%再生紙を使用し、大豆油インキで印刷しております。